Japanese association of educational psychology

PE 23

幼稚園から小学校への移行に関する研究　V

○進野　智子　　小林　小夜子
（長崎大学教育学部）　（玉木女子短期大学）

目的 幼稚園から小学校への移行に関する研究において、幼稚園および小学校の教師を対象として横断的研究を行い（進野 1998、小林 1998）、教師による評定が幼稚園と小学校では差異の見られることを明らかにしてきた。、本研究においては、同一の子供を縦断的に追跡することによって幼稚園の教師と小学校の教師が移行の主体である子供を捉える際の捉え方の相違について明らかにすることを目的とする。

方法①評定対象平成9年度幼稚園年長児59名（男児30名、女児29名）、平成10年度小学1年生児童59名（平成9年度年長児全員）②評定者平成9年度幼稚園年長児担任教師2名および平成10年度小学校1年生担任教師4名。③ 調査方法担任クラスの子供に関する質問紙法を実施。柏木(1988)の「教師による幼児の行動評定尺度」を幼稚園・小学校教師ともに使用し、4段階評定を求めた。④調査期間幼稚園；平成9年度11月配布、12月回収。小学校；平成10年12月配布、1月回収。⑤回収率幼稚園小学校とも100%。

結果・考察 担任教師による園児・児童の縦断的個別評定から、幼稚園教師と小学校教師の評定値間に71項目中32項目において有意差が見られた（表1参照）。幼稚園教師が小学校教師よりも有意に高く評定した次元は、自己主張・実現尺度「遊びへの参加」と自己抑制尺度の「遅延可能」に関する次元であった。小学校教師が幼稚園教師よりも有意に高く評定した次元は、自己抑制尺度の「フラストレーション耐性」と「持続的対処・根気」に関する次元であった。自己抑制尺度の「制止・ルールへの従順」に関しては、双方の教師によって有意に高く評定された項目が混在していた。自己主張・実現尺度の「拒否・強い自己主張」および「独自性・能動性」の次元においては、双方の教師間に有意差は見られなかった。

これらの結果から、幼稚園教師が年長児を自己主張、自己実現、自己抑制が可能な存在であると捉えていることが明らかにされた。一方小学校教師は児童を厳しく評定しており自己抑制が確立されていないと捉えていることが明らかにされた。

表1　担任教師による園児・児童の縦断的個別評定

★★★幼稚園教師の方が小学校教師よりも有意に高く評定した項目★★★

自己主張・実現（遊びへの参加）

9．ごっこ遊びなどでやりたい役が言える。　23. 遊びたい玩具を友だちが使っているとき、”貸して”と言える。
25. 遊びたい友だちを自分から誘って遊べる。　26. してほしいこと、ほしいものをはっきり大人に頼める。
47. ままごと遊びやごっこ遊びなどで自分に決められた役割ができる。　56. 状況に応じて行動を変えられる。

自己抑制（遅延可能）

31.”ちょっと待っていなさい”で待てる。　33. 教えられたことを理解し、教示通りに実行できる。　35. 友だちとおもちゃの貸し借りができる。　38. 遊びの中で自分の順番が待てる。　50. おやつが配られるのを待てる。
51. 集団の中で我慢できる。　58. 教師に話しかけたいとき、他の子が話している間待っていられる。　61. 相談や大勢で話しているとき自分の順番を待てる。　63. 相手の名無しの終わりまで聞ける。　69.「後であげます」と言えば待てる。　71. 自分の持ち物と他人の持ち物を間違えずに区別できる。

★★★小学校教師の方が幼稚園教師よりも有意に高く評定した項目★★★

自己抑制（フラストレーション耐性）

４２．仲間と食い違った時は願望を抑える。　４５．（絵や工作などが）思い通りにゆかないとかんしゃくを起こす。
５９．欲しいものが手に入らないと、泣いたり、怒ったりする。　６２．勝ち負けのあるゲームで負けると泣いたり、怒ったりする。　６５．劇やごっこ遊びの役決めの時、なりたい役になれなくても我慢する。

自己抑制（持続的対処・根気）

１．人のまねをする。　３０．命令されたことがいやなことや難しいことでもすいこうできる。

☆☆☆幼稚園教師と小学校教師の評定に関して有意差が混在して見られた次元☆☆☆

自己抑制（制止・ルールへの従順）

★★★幼稚園教師の方が小学校教師よりも有意に高く評定した項目★★★

３６．「してはいけない」と言われたことはしない。　５２．園でのきまりをいちいちいわれなくても守れる。

★★★小学校教師の方が幼稚園教師よりも有意に高く評定した項目★★★

１５，人の目を引こうと目立ったことやかわったことをしてみる。　２８．したいことをとめられるとやめる。

NII-Electronic Library Service